

平成20年9月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成20年9月の熱中症による全国の救急搬送の状況をとりとめたので、その概要を公表します。

総務省消防庁では、これまでに平成20年7月及び8月の熱中症による全国の救急搬送の状況を公表したところですが、この度、平成20年9月の結果がまとまったので公表します。

【別添資料】

- [○平成20年9月の熱中症による救急搬送状況（都道府県別）（別添1）](#)
- [○熱中症による救急搬送比率（別添2）](#)
- [○平成20年9月の熱中症による救急搬送状況（日別）（別添3）](#)
- [○平成20年9月の熱中症による救急搬送状況（年齢、傷病程度別）（別添4）](#)
- [○平成20年7月から9月までの熱中症による救急搬送状況（都道府県別）（別添5）](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：松野補佐、島田係長
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

【ポイント】

- ・ 平成 20 年 9 月の全国における総救急搬送人員は 367,265 人で、そのうち熱中症による救急搬送人員は 1,467 人 (0.4%) でした。これは、平成 19 年 9 月の熱中症による救急搬送人員 3,928 人の 37.3% となっています。熱中症による救急搬送人員の総救急搬送人員に対する割合について、平成 20 年 9 月と平成 19 年 9 月を比べると、平成 20 年は、秋田県と神奈川県と同率を除き、45 都道府県で減少しています。また、平成 20 年 9 月の熱中症による救急搬送人員は、平成 20 年 8 月の 8,857 人の 16.6% の水準にとどまっています。
- ・ 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、成人が 684 人 (46.6%) と最も多く、次いで高齢者 (65 歳以上) が 533 人 (36.3%) になっています。特に、高齢者は、人口構成割合 (統計局人口推計、平成 20 年 9 月) の 22.0% と比べると、熱中症による救急搬送人員の比率が高いことがわかります。
- ・ 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 975 人 (66.4%)、次いで中等症 450 人 (30.7%)、重症 22 人 (1.5%) の順となっています。また、死亡は報告されませんでした。
 - ※ 軽 症：入院を必要としないもの
 - 中等症：重症または軽症以外のもの
 - 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 - 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの
- ・ 平成 20 年 7 月から 9 月までの全国における熱中症による救急搬送人員は 23,071 人でした。これは、平成 19 年同期の熱中症による救急搬送人員 23,782 人とほぼ同じ水準となっています。

平成 19 年は、梅雨明けとなった 8 月に埼玉県熊谷市や岐阜県多治見市等で記録的な最高気温が観測され、熱中症による救急搬送人員も 8 月にピークをむかえましたが、平成 20 年は、7 月下旬に梅雨が明け、その後、猛暑日が全国各地で観測され、熱中症による救急搬送人員も 7 月下旬にピークをむかえたところであり、8 月中旬以降は減少しています。

(参考)

- ・ 政府では、下記の HP で熱中症の情報を提供しています。
- ・ 環境省熱中症情報
(http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/)